徳育科のパイオニア　コミュニティスクール

八小だより

武蔵村山市立第八小学校　令和２年１１月２日

http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html

教育目標
◎ 考える子
○ 思いやりのある子
○ やりとげる子
○ 礼を重んずる子

行動目標
わけをそえて話すことができる子
教室で話しているのは一人

価値ある教育活動の創造と実践を目指して

副校長　　植　杉　義　久

先月、八小校区で前任校の教え子に会いました。７年前に小学校を卒業した彼に会うのは４年振り、卒業後２回目になります。お互いがこの偶然の出会いに驚き、なぜその場にいるのかを説明し合いました。そして、彼の近況の話になりました。現在は、働いていて両親の仕事を手伝っているとのことでした。私は、彼が卒業文集で「将来の夢は車の整備士になることです。」と書いていたのを覚えていました。また、４年前に会った時もそれに関係する高校に入学すると聞いていたので「御両親は、車関係の仕事だったかな。」と考えました。すると、彼が「整備士になるつもりでいたんですけど、やっぱりやめました。」と話すので、理由を尋ねました。すると「もともと小学生の時から毎日忙しそうにしている両親を見て、手伝いたいなと思っていました。でも、整備士にも興味があるし、素直に『仕事を手伝いたい』って言うのが、恥ずかしいというか、悔しいというか、反抗したい気持ちあったんですよね。」と答えました。更に「実際に進路を考えた時に悩みに悩んで、手伝うことに決めました。それまで、『手伝いたい。』なんて一言も言ったことなかったので、親は少し驚いてましたけど。今は、父が社長なので、一緒に現場を回って仕事を教わっています。毎日叱られてばっかりです。」と充実感に満ちながらも照れ臭そうな表情で話してくれました。今年八小校区へ家族全員で引っ越し、その家のガレージが仕事場兼作業場になっているとのことなので、次はその家で互いの近況報告をすることを約束し、別れました。

私は、彼と別れてからしばらくの間、とても温かい気持ちになりました。と同時に、ふと考えたことがあります。『彼は「卒業文集の夢」を選択しなくても、現在の生活に満足し、幸せそうだった。私が担任として彼に書かせた卒業文集は、どんな意味があったのだろうか』と。
小学生時代に描いた夢のように生きていくのは、なかなかできることではない、と頭では理解しながら、前述の彼から整備士ではない話を聞いたとき、ほんの少しがっかりしたことは事実です。しかし、今の仕事に誇りをもって話をする彼を見て、自分の理想を教え子に押しつけていたことに気付いたことも事実です。

長い人生の中で小学校時代の６年間は遠い記憶になります。では、小学校で学んだことはどこでいつ発揮されているのでしょうか。
我々は、「学習面も生活面も今日、指導したことがいつか子供たちの人生において必要になるだろう。」という思いで教育活動に取り組んでいます。今、指導して、すぐ改善させなければならないこともあれば、長い目で見て少しずつ考えさせたり、定着させたりした方が良いこともあります。そのため、学ぶ意欲が向上する学習の工夫や評価をしたり、よりよい人間関係を育むために運動会や音楽会などの学校行事を実施したりします。つまり、小学校は様々な体験や経験を通して、自分の可能性に気付かせる基礎を作っているということができるかもしれません。

前述した教え子が、親を思いやる気持ちや夢に向かって努力する姿勢などは小学校、中学校、高等学校等の教育で培われ、『誇れる人生の選択』をしたのだと思います。卒業文集を書いたことも、彼にとって自分の気持ちと向き合うきっかけにはなったようです。この成長過程の中で家庭の力が大きく関わっていることは間違えありません。
今後も子供たちの健全な成長のため価値ある教育活動を創造し、実践していきます。